

全国「道の駅」シンポジウムin倉吉・三朝 倉吉・三朝宣言

平成2年に広島市内で開催されたシンポジウムにおいて、「道路にも、鉄道の駅のようにトイレがある駅があってもよいのではないか」という提案を機に動き出した「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、今年で四半世紀を迎えました。

平成5年に、全国103駅の登録で始まった「道の駅」は、平成25年には1,000駅を越え、平成29年10月現在、1,117の「道の駅」が登録され、地方創生の拠点として更なる進化を遂げるとともに、その役割は益々多様化しています。

本日、「道の駅」発祥の地とされるここ中国ブロックにおいて、四半世紀という節目の年に、私たち、全国「道の駅」関係者が相集い、全国「道の駅」連絡会総会及び全国「道の駅」シンポジウム in 倉吉・三朝を開催しました。

平成27年の国勢調査では我が国の人口が初めて減少に転じ、本格的な人口減少、急激な高齢社会を迎える中において、今回これからの「道の駅」のあり方について議論を深めたところです。

今後も、「道の駅」が地域に必要なインフラとして持続的に発展していくためには、福祉や医療などの住民サービス支援、防災、観光窓口など地域の様々な課題に対しきめ細かく対応していくことの必要性や、「道の駅」個々の取り組みだけではなく、相互が連携を深めていくことの重要性が示されました。

特に、連携にあたっては、各「道の駅」、設置者である地方公共団体等に加え、総合行政を担う都道府県や広域行政を担う国の機関との連携によって、より一層の取り組みが推進できることを認識できました。

私たち全国「道の駅」連絡会は、この四半世紀に歩んできた「道の駅」の持つ機能や地域に果たしてきた役割を改めて振り返りつつ、変わりゆく社会情勢の中においても、全国の「道の駅」や関係する様々な方々と互いに手をつなぎ、地域創生の拠点として更なる進化をさせていくことを、ここに宣言いたします。

平成29年10月5日
全国「道の駅」連絡会